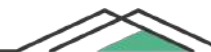


地域おこし協力隊活動報告

活動期間 2020.1.1～

永島佳奈絵



地域おこし協力隊としてのミッション



おごせの
すきを育て、
地域を
デザインする。



Instagram | [ogose.kanaer](https://www.instagram.com/ogose.kanaer)

ブランディングやデザインを通して、まちの魅力発信・PRに貢献する

デザインは地域に価値をもたらすことができるか。その可能性を信じて、自然豊かな里山である越生町に、ご縁をいただきました。今までの仕事で培ってきたグラフィック等のデザイン、空間演出などのスキルを活かせればと思い入隊しました。

1. まちの取組みを彩るデザイン



○空き家バンクチラシ制作

制度利用者への取材や、空き家バンクの仕組みをわかりやすく図式化するなど工夫。主に子育て世代の流入増をイメージしてデザインした。

○太田道灌のぼり制作

まちのゆかりの偉人のPRとしてのぼりを制作。伝説に伝わる八重の山吹の花を添えてデザインし、町内の各スポットに設置された。

○その他

動画コンテスト/講習会の募集チラシ制作や、町公式のWebサイトやYoutube等において、世界観を作るためのサポート業務を行った。



紙面やWEBでの情報発信における、デザインを担当

ただデザインを行うのではなく、担当者と話し合い、取り組みを行う上で課題となっている点を見える化し、それを解決するためのリサーチ、取材撮影、言葉選びなども丁寧に行い、ターゲットに届く手法を考えた。

2.特産品のPR



○ゆず商品シール制作

ゆず農家のみなさんのご要望を聞きながら、パッケージに貼る専用シールを3パターン制作。越生ゆずとして他の地域との差別化を測った。

○ゆず販売会ポスター制作

テキストが中心だったそれまでのポスターを見直し、イベントが消費者と生産者の出会いの場となるようなイメージでレイアウトした。

○梅販売会ポスター制作

コロナ禍で需要が増えた、手しごとを楽しむ人を応援したいという思いで「新鮮な梅を越生で爆買いしませんか」と大胆なメッセージとした。ブランド梅「べに梅」の詳細も載せてPRした。

町の特産である梅や柚子を魅力的にアピール

県内でトップクラスの生産を誇る梅や柚子。それまでなんとなく販売されていたこれらの魅力をいかに表現するか、ということは課題だった。生産者のプライドを高めることや、生産者と消費者をつなぐことを意識して形にした。



3. 「まちの名刺」をつくる、町勢要覧の制作



○新しい視点と、複合的なストーリーづくり

例えば、「越生は梅の里」というテーマの中には、観光地として越生梅林があり、産業として梅の生産量が高いことだけが、その魅力ではないと考えた。なぜならこのまちには、「梅の里」で生活する、一万人の暮らしがあるから。生産者がどんな思いで梅を育てているか。子どもたちはどのように梅と触れ合い育っていくか。人々の暮らしの中で梅はどのように活かされ、楽しまれているか。なぜ梅の花が咲くと人は集まり、花を愛でるのだろうか。そういった「人と梅」の関わりに迫り、「梅の里」という風土がもつ多様な魅力が映し出せるよう構成した。

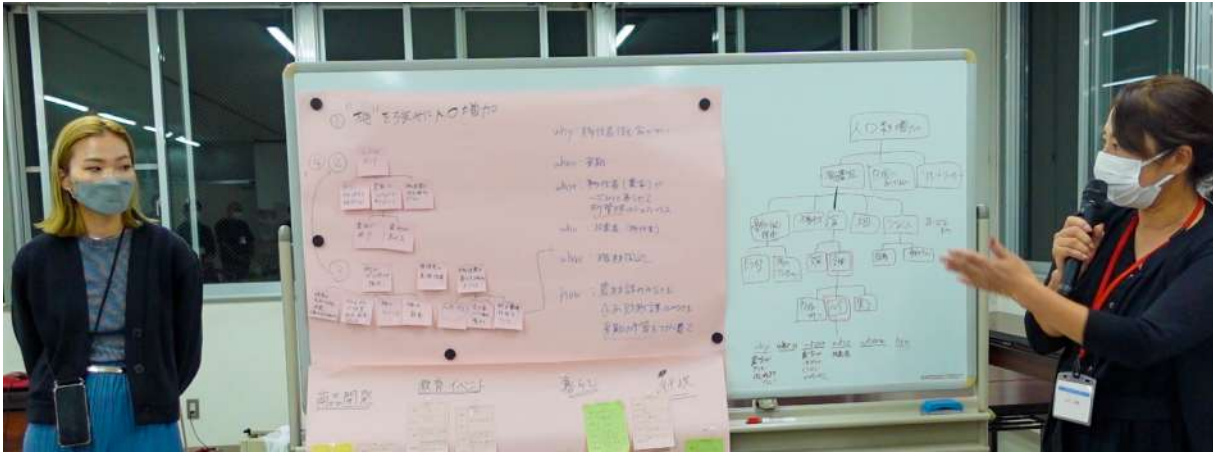
まちを応援したくなる冊子を目指して

町の担当者と共に、町勢要覧という総合パンフレットの制作に取り組んだ。実際に現地に足を運びながら取材を重ね、コンセプトの設定、編集、レイアウトまでおよそ8ヶ月ほどかけ、完成に至った。

大切にしたコンセプト「わたしがつなぐ」

- 町のなかの様々な要素をつなぐ＝点を線にして、越生だけの物語をつくること。
- 一人一人が町をつくっている。個人と町のつながりを再確認できるように。
- 越生が育んできた歴史と、今をつなぎ、新たな未来を築いていけるように。
- この町勢要覧が、さまざまな人々と越生町を結ぶきっかけになるように。

4.女性・若者まちづくり会議におけるファシリテーター



○3つの柱を設定

大きなテーマの中から、梅によるまちのブランディング、移住・定住促進、まちの魅力の最大化という点に絞って、課題と解決策についてのグループディスカッションを促した。最終的に町長に対して各チームによる提案が行われた。

○話し合いルール

参加者一人一人が発言しディスカッションが活性化するように、話し合いのルールを設けた。相手の話をよく聞く、思いついたことは言う、否定しない、できない理由でなくできる方法を考える等、皆さんにお願いした。



○実現に繋げるために

ただ意見を聞く場としてでなく、会議の時間が充実し、アイデアが何か一つでも将来形になるよう、町長や事務局と打ち合わせを重ね、より良い会議の進め方を模索した。

行政と町民の架け橋として

2022年5月～10月にかけて、人口減少社会に対応した持続可能なまちづくりを目指して、というテーマで開催された女性・若者会議のファシリテーターを担当。町民からのリアルな意見の抽出やディスカッションの充実のため、傾聴と架け橋の役割を担った。

5 .PR事業出店イベント



PR事業を盛り上げるための工夫

- ユニフォームの制作
- 梅や柚子のぼうしの制作依頼
- 梅の里PRのぼり制作
- 看板やディスプレイ制作
- 観光への呼び込み

町外へ越生の魅力を伝える、フレンドリーな場づくり

朝霞市と川島町にて、越生産の梅ジュース・柚子ジュースを配布する町のPR事業において、出店の場づくりや演出を担当した。一般的な行政のイメージと異なる、フレンドリーで楽しい雰囲気作りに努め、たくさんの方々と交流し越生を知っていただくきっかけとなった。



6. デザインの考え方、楽しみ方を伝える



→

一番見てほしい
タイトルと日程を
目立たせる



→

新鮮な梅のイメージや楽しさを演出



▲職員が一人で作ったデザイン。アイキャッチや、ワクワクするような雰囲気を出すことが課題。

▲梅フェアらしいテーマカラーを選んでいただき、タイトルが引き締まってインパクトが出てきた。

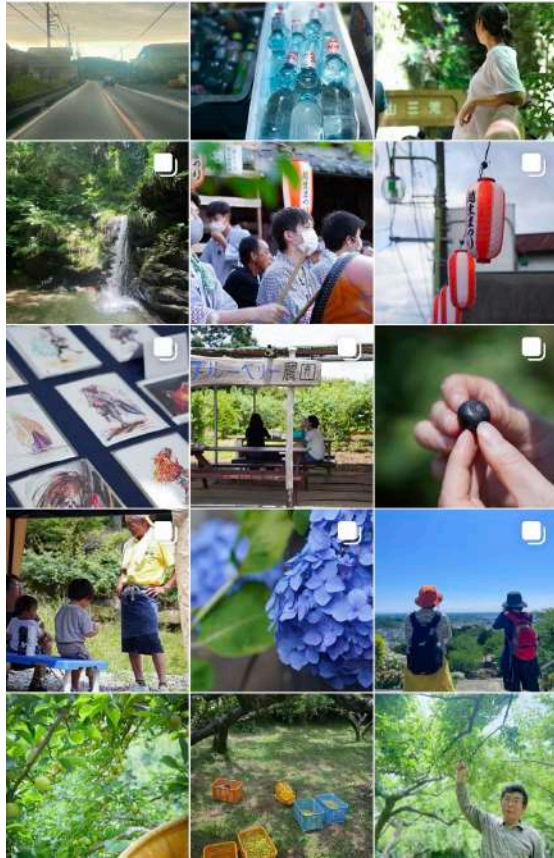
▲一目で生梅の販売が連想でき、視認性も向上し、楽しそうな雰囲気が伝わってくるレベルまで作り込んだ。

行政職員へのデザインレクチャー

任期三年目には、デザインへの苦手意識がある行政職員に対してレクチャーをする機会も増えた。イベント告知ポスターの作成補助では、初めはどうすればより良くなるかわからないと悩んでいた担当職員だったが、意識すべきポイントを伝えていくと、ここも変えたほうが良いという視点に自ら気づくようになり、どんどん修正が進んでいった。手を入れるたびに変化していくデザインの楽しみを知っていただき、苦手意識の克服に繋がった。



7. 観光地としての意識



○地域の魅力を切り取る

既存の地域の在りようを自分なりの角度で切り取ることで、新たな見せ方ができるのではないかと常に模索し撮影に出かけた。

○梅まつりの改善案

イベントの新しい顧客を開拓に向けて何か協力できればと、主催する観光協会に改善案を提出。マーケティングの視点で他県で開催される梅まつりの視察も複数行った。

○梅のお土産品の試食会

開発の参考になればと、各地の視察先から梅にまつわる食品を持ち帰り、特産物加工研究所の皆さんや町長との試食会を実施した。

4	BGM実装	
内容	音楽によって気分の上昇やリラックス感が生まれ、場の演出ができる。よい思い出となつてもらうためにも、音楽は欠かせない。同じ場所でも気分は、場所が異なり滞在時間が長くなったときなど、音楽にも注意が必要。	
5	パンフレット書籍類	
内容	案内図など、一目見て観光を満喫してもらうためのアプリやエディタを作成。観光センター、飲食店などのチラシを置く。	
6	オンラインサイトの設置	
内容	オンラインサイトの更新、書籍としては、 ・オンライン性の向上 ・画像が美しいので、書籍版に ・オンラインショップなどでの購入 ・遠くの方を誘導できる情報の導入など	
7	花見弁当	
内容	見た目も美味いし、一人一人の定額商品を作る。写真映えも期待で、梅も美味しい、女性が好き。メニュー、季節だけでなく、選べる色と二層おにぎり、デザートなど、梅の花の下で食べるという文化があるといふ。	
8	体験ワークショップ	
内容	梅を使ったワークショップ体験や お土産など	

時代に応じてアップデートする観光地であるために

着任後からこのまちの良さを知るために、さまざまな観光スポットやお店を巡った。また、観光のために地域で活躍している方々に、新しいことに取り組むきっかけになればと、他地域のリサーチや、アイデア収集などを行った。



8.新しいかたちの梅花見を提案（1）



農園を活用したイベント「梅凜フェス」開催

梅農家と共同で花見イベントを主催。飲食ブース9店、物販、音楽ステージ、落語、キッズエリア、ワークショップ、お花見こたつ席などフォトスポットに加え、夜は梅のライトアップを開催。食やエンターテインメントを交えて、1日楽しめる梅花見のスタイルを実現。

満開の梅咲く木の下で
おいしいものと、楽しい時間。

SAIRIN
梅凜
フェス

2.25 SAT
2023年
時間：11:00~20:00
会場：山口農園@庭生町

梅農園であそぼ！
—令和時代の新しい梅花見「梅凜フェス」—

主催：梅の里おごせ 山口農園 × 庭生町地域おこし協力隊
共催：筑波大学附属坂戸高等学校

9.新しいかたちの梅花見を提案（2）



農園の特徴を活かした空間演出

- 梅の木を主役としたライティング
- 農作業でいつも使用されている三脚をモニュメントとして装飾
- 農機具を保管する倉庫を活用した音楽ステージ
- 農地の傾斜の特徴を活かした動線的设计
- 梅の花の雰囲気合うオリジナルBGM



○越生梅みくじの制作

梅の名所や歴史を学ぶうちに、縁を引き寄せるようなパワーが梅にあると感じられた。梅の代弁者として、梅からの教えを言葉に代えて、おみくじの形で来場者に楽しんでいただいた。



ご覧いただきありがとうございました

以上が主な活動についての紹介です。
微力ではありますが、少しでも地域のために
貢献できていれば幸いです。